



2022年7月29日

Vol
162

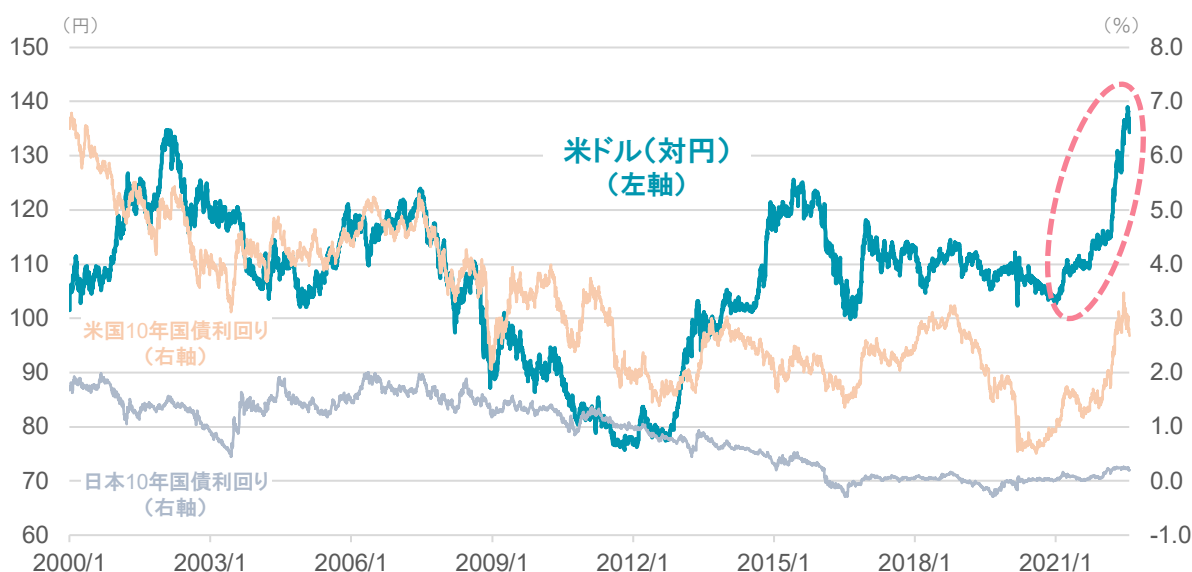
「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」、どちらがいいの？

進行する円安が市場参加者の関心を集めています。7月14日には1米ドル＝139円台に下落する場面も見られるなど、年初から円安の流れが続いています。

米国では、物価上昇の高止まりが懸念され、米連邦準備理事会（FRB）が利上げを続けるとの見方が浮上する一方で、日銀は大規模な金融緩和を続ける姿勢を示していることが、円安・ドル高が進みやすくなっているひとつの要因だと言われています。

コールセンターには、為替の見通しに関する多くのお問い合わせとともに、「為替ヘッジありと為替ヘッジなし、どちらがいいの？」というご相談が増えています。そこで今回は、「為替ヘッジ」の仕組みをあらためて整理しておきたいと思います。

■ 米ドル(対円)と日米10年国債利回りの推移(期間:2000年1月初～2022年7月28日、日次)



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成 ※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。



こよみ

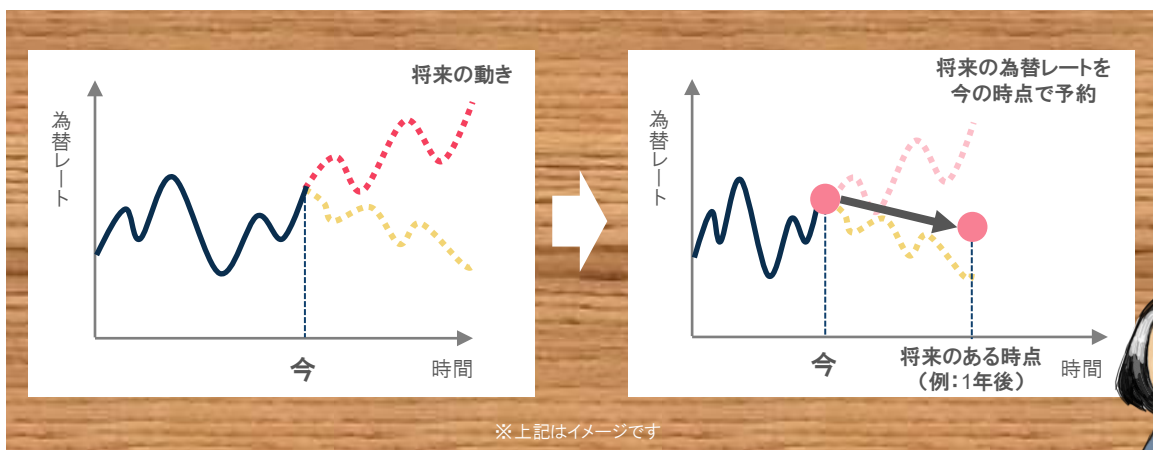
コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
7月

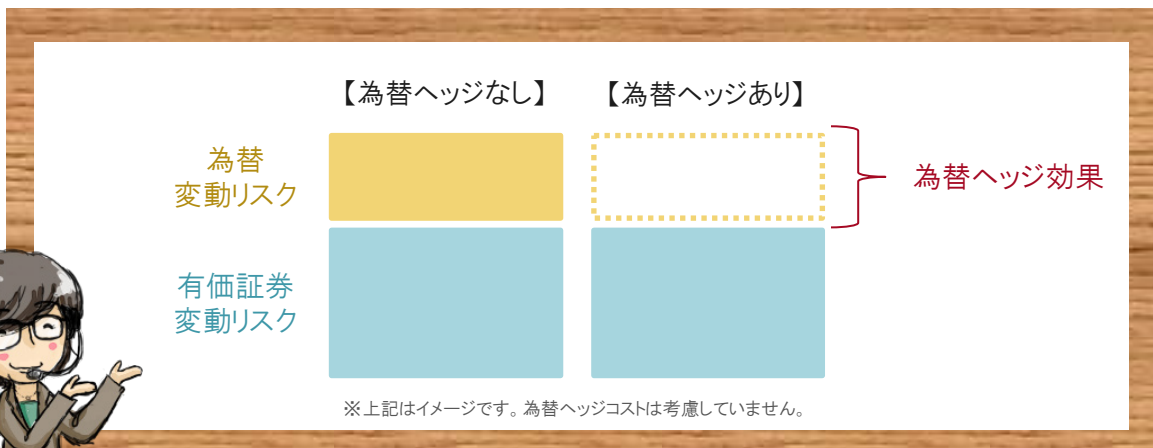
そもそも為替ヘッジとは？

「為替ヘッジ」とは、一般的に「為替予約」という手法を活用し、今の時点であらかじめ、将来の為替レートを予約する（確定させる）ことです。例えば、「1年後に、1米ドル＝〇〇円で交換する」という約束を結ぶことによって、為替レートの変動による影響を回避しようというものです。



海外資産に投資を行なう場合、有価証券の変動リスクとともに、為替の変動リスクが生じます。「為替ヘッジ」を行なうと、「為替変動リスク」をなくす効果が期待できます。この「為替ヘッジ」を活用し、為替リスクを抑えながら海外資産への投資を可能にすることを目指すのが「為替ヘッジありコース」です。

■ 為替ヘッジを行なう効果





こよみ

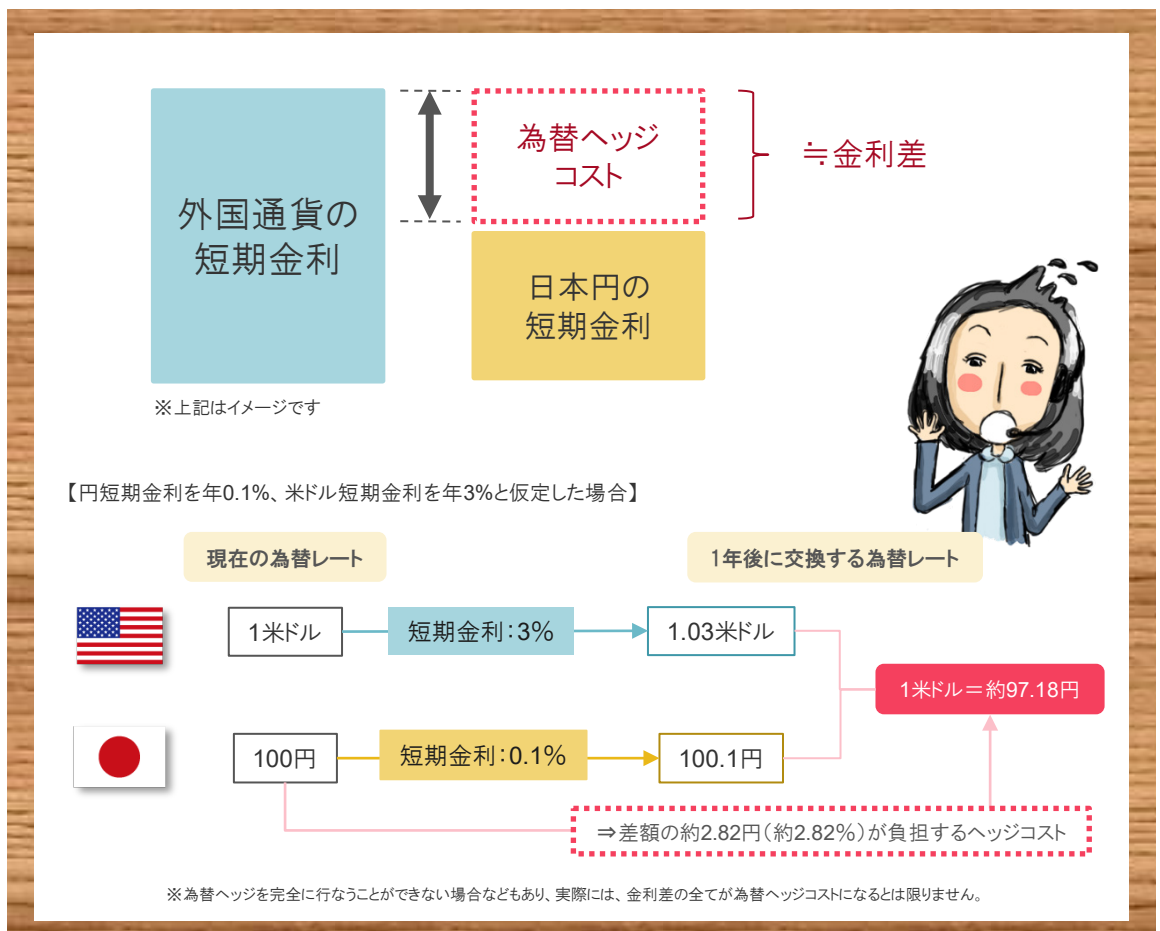
コールセンターからの、小さなよみもの

2022年
7月

為替ヘッジには、「コスト」がかかる？

「為替ヘッジ」を行なうには、「将来のある時点での円への交換を約束してくれる相手（交換相手）」が不利にならないように、交換までの間の金利差相当額を、交換相手に支払う必要があります。ですから、金利の高い通貨を保有される方が、金利の低い通貨に為替ヘッジを行なう場合、金利差相当額を支払うことになる（「為替ヘッジコスト」と言います）ことには注意が必要です。現在の日本と世界の中央銀行の利上げに対するスタンスの違いを考えると、日本円への為替ヘッジは、当面「為替ヘッジコスト」が発生しやすい環境にある、つまり全体の運用成果を押し下げる要因となることが想定されることは、押さえておきたいポイントと言えそうです。

■ 為替ヘッジコストのイメージ





こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
7月

メリット・デメリットを理解したうえで選択しましょう

「為替ヘッジ」には、為替リスクを低減することが期待できる一方で、「為替ヘッジコスト」が発生する可能性もあるため、一義的に、する方がいいのか、しない方がいいのか言い切ることはできません。

以前にもお話をしたように、投資信託の基準価額は、2つの要素(投資対象の有価証券と為替レート)の掛け算によって変動しますから、一要素である為替だけに着目して、投資判断をするのは、やや早計と言えるかもしれません。いずれにせよ、「為替ヘッジ」の仕組みを正しく理解したうえで、ご自身の資産形成の目的と向き合いながら、選ぶことが重要だと言えます。

(こちらもご参照ください [Vol.159 進行する円安だけを見た投資判断ってホントに正しい？](#))

■為替ヘッジのメリット・デメリット

	為替ヘッジあり	為替ヘッジなし
メリット	為替変動リスクの低減が期待できる	為替差益を得られる可能性がある
デメリット	為替ヘッジコストがかかる可能性がある	為替差損が生じる可能性がある



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00